

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00126

研究課題名（和文）フランス・アカデミーの総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of Academies in France

研究代表者

栗田 秀法（Kurita, Hidenori）

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：10367675

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：旧体制期のフランス・アカデミー（アカデミー・フランセーズ、王立絵画彫刻アカデミー、王立碑文文芸アカデミー、王立科学アカデミー、王立音楽アカデミー、王立建築アカデミー）をめぐって、各アカデミーの専門家が知見を持ち寄り諸アカデミー相互の比較検討を行うという世界的にもまれな新しい試みに取り組み、黎明期にあった人文社会科学、自然科学をはじめとする近代的な諸学門、諸芸術の領域が、初期近代のアカデミーという場を与えられ、次の時代につながる制度的基盤を形成していった過程の一端を浮かび上がらせることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フランスにおける諸アカデミーの制度を支える政治的・経済的・社会的・文化的基盤、その理念と現実について、各アカデミーのあいだの差異に留意しつつ、またアカデミーと外部との関係（例えば、国家との関係、大学との関係、職人などの団体との関係、地方との関係、他国・他地域との関係など）を検討しながら、考察・検証を進めることを通じてフランス・アカデミーを総合的に捉えるための礎が築かれた。その結果、アカデミーの制度がもつ、社会や文明の中での位置づけをさらに検討するための可能性が大きく開かれた。

研究成果の概要（英文）：This is a new project in which experts from the French Academies of the Old Regime (Academie francaise, Academie royale de Peinture et de sculpture, Academie royale des inscriptions et des lettres, Academie royale des sciences, Academie royale de musique, Academie royale de l'architecture) bring their knowledge and experience to a comparative study of the various academies. The project was an attempt to highlight the process by which the humanities, social sciences, natural sciences, other modern disciplines and the arts, which were in their infancy, were given a place in the early modern academies and formed the institutional foundations for the next era.

研究分野：西洋美術史

キーワード：アカデミー・フランセーズ 王立絵画彫刻アカデミー 王立碑文文芸アカデミー 王立科学アカデミー 王立音楽アカデミー 王立建築アカデミー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

旧体制のフランスの個々のアカデミーについては、それなりに研究があるものの、その相互関係や全体については、欧米でもまとまった研究が存在せず、全体像や相互関係がわからないために、絵画彫刻アカデミーにせよ、音楽アカデミーにせよ、建築アカデミーにせよ、その位置づけは不明確なままであった。それゆえ、アカデミーが芸術・学芸を領導したこの時代にあっても、それぞれの学問芸術の位置づけも明確ではないままで、フランス・アカデミーの全体像とその構造を総合的に明らかにすることが重要な課題として浮かび上がったのである。

2. 研究の目的

アカデミーの時代を築いたフランスに対抗して、19世紀になるとドイツが新たな大学の制度を構築し、それが今日の(日本を含む)大学の土台をなしている。そして現在、その大学という制度の中で、学問や諸芸術およびそれら理論が教育研究されるようになってきているわけだが、こうしたあり方がなぜ生まれたのかを解明し、現在の諸芸術・学芸について再考する機会を提供し、アカデミーの制度を支える政治的・経済的・社会的・文化的基盤ならびにアカデミーと外部との関係を明らかにすることにより、アカデミーの制度がもつ、社会や文明の中での位置づけをいっそう明確することが目的である。

3. 研究の方法

旧体制期のフランス・アカデミーの主要6アカデミー(アカデミー・フランセーズ、王立絵画彫刻アカデミー、王立碑文文芸アカデミー、王立科学アカデミー、王立音楽アカデミー)について、専門が近い研究者がそれぞれのアカデミーの制度と歴史について報告を行い、専門を異にするアカデミーについての知見を相互に得るとともに、アカデミー間の類似と相違についての意見交換を行った。

次いで、アカデミーの制度を支える政治的・経済的・社会的・文化的基盤ならびにアカデミーと外部との関係を明らかにすべく、規約、財政、会員、教育、社会との関わり、外国への波及等の視座から分担してアカデミー相互の横断的な比較検討の報告を重ね、アカデミーの全体像と構造を明確にする作業を行った。

4. 研究成果

旧体制期のフランス・アカデミー(アカデミー・フランセーズ、王立絵画彫刻アカデミー、王立碑文文芸アカデミー、王立科学アカデミー、王立音楽アカデミー、王立建築アカデミー)をめぐって、各アカデミーの専門家が知見を持ち寄って諸アカデミー相互の比較検討を行うという世界的にもまれな新しい試みに取り組むことで、黎明期にあった人文社会科学、自然科学をはじめとする近代的な諸学門、諸芸術の領域が、初期近代のアカデミーという場を与えられ、次の時代につながる制度的基盤を形成していった過程の一端を浮かび上がらせる手がかりを得ることができた。

フランスにおける諸アカデミーの制度を支える政治的・経済的・社会的・文化的基盤、その理念と現実について、各アカデミーのあいだの差異に留意しつつ、またアカデミーと外部との関係例えば、国家との関係、大学との関係、職人などの団体との関係、地方との関係、他国・他地域との関係などを検討しながら、考察・検証を進めることを通じてフランス・アカデミーを総合的に捉えるための礎が築かれるに至った。その結果、アカデミーの制度がもつ、社会や文明の中での位置づけをさらに検討するための可能性が大きく開かれた。

具体的には、個別のアカデミーの研究の進捗をアップデートできたことに加え、アンシャン・レージュム期のアカデミーを多面的に比較・検討していくなかで、次のようなことが留意事項として浮かび上がって来た。

- ・ルイ14世治下とそれ以降とでは性格が異なり、区別して考える必要があること
- ・管轄が宮内省と建築局とでは、組織、財政、規約のあり方に相当の性格の相違が存すること
- ・18世紀半ばからは、いくつかのアカデミーでは、例えば懸賞論文のように、外部に開かれたアカデミーの活動が顕著になること、並びに地方アカデミーの役割が想像以上に大きいこと

個別の論考の公開に加え、中間報告的な研究成果をまとまった形で公にすべく共通論題「学問・芸術の制度と『自由』 18世紀におけるアカデミー、大学、官僚機構」を冠したシ

ンポジウムを 2021 年に日本 18 世紀学会において企画し、研究チーム 6 名のうち 4 名が参画した。

助成期間資料後も本研究をさらに発展させ、最終的には論文集としてまとめ、総体としての成果を世に問う予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 栗田秀法	4. 巻 5
2. 論文標題 王立絵画彫刻アカデミーとラファエッロ：ローマ大賞受賞作品を手掛かりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6. 最初と最後の頁 299-317
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/jouhunu.5.299	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新居洋子	4. 巻 1012
2. 論文標題 「移動(しないこと)」からみる中国をめぐる知の編成：シノロジーとその他（小特集 人の移動と学知の形成をめぐる歴史学）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 敦子	4. 巻 44
2. 論文標題 批判と礼賛：プラトンにおけるレトリックの地位	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中部大学人文学部研究論集	6. 最初と最後の頁 83-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 敦子	4. 巻 45
2. 論文標題 リベラルアーツ概念の歴史的変遷：レトリックによる「判断力」の養成をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中部大学人文学部研究論集	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉孝誠、玉田敦子、真野倫平	4. 巻 45
2. 論文標題 文学と歴史(学)の関係を問い直す	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 cahier(日本フランス語フランス文学会)	6. 最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木真	4. 巻 35
2. 論文標題 戦争の歴史を考える ヨーロッパ近世・近代を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史学協会年報	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島智章	4. 巻 85/ 775
2. 論文標題 コルベール文書「ヴェルサイユ宮殿:概論」の ヴェルサイユ新城館造営過程への位置づけ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 2029-2035
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.85.2029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗田秀法	4. 巻 29
2. 論文標題 美術アカデミーの「歴史画」の母胎を探る:ラファエッロとアリストテレスの『詩学』との関わりをめぐる若干の覚書き	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋造形大学紀要	6. 最初と最後の頁 53-61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新居洋子	4. 巻 31
2. 論文標題 交流の現場へのまなざし：明清時代の中国と西欧との文化交流をめぐる研究史と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国史学	6. 最初と最後の頁 131-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 隠岐さやか	4. 巻 16
2. 論文標題 アカデミーと「自由」；18世紀パリ王立科学アカデミーの理念と実際（研究ノート）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『ゲシヒテ』ドイツ現代史学会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 隠岐さやか	4. 巻 49
2. 論文標題 フランス革命期におけるアカデミー批判言説とその廃止について；廃止されなかった組織との対比	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『研究室紀要』東京大学教育学研究科基礎教育学研究室	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 8件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 栗田秀法
2. 発表標題 王立絵画彫刻アカデミーとラファエッロ：ローマ大賞受賞作品を手掛かりに
3. 学会等名 美術史学会、ラファエッロ没後500年記念シンポジウム「ラファエッロとラファエッロ主義」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗田秀法
2. 発表標題 王立絵画彫刻アカデミーにおける自由と 不自由
3. 学会等名 日本18世紀学会：共通論題 「学問・芸術の制度と『自由』 18世紀におけるアカデミー、大 学、官僚機構 」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 隠岐さや香
2. 発表標題 パリ王立科学アカデミーと『自由』
3. 学会等名 日本18世紀学会：共通論題 「学問・芸術の制度と『自由』 18世紀におけるアカデミー、大 学、官僚機構 」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 玉田敦子
2. 発表標題 近代語による国家の創設 アカデミー・ フランセーズと啓蒙期の言語革命
3. 学会等名 日本18世紀学会：共通論題 「学問・芸術の制度と『自由』 18世紀におけるアカデミー、大 学、官僚機構 」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新居洋子
2. 発表標題 「清の学問と権力 梅文鼎『学暦説』をめぐる考察
3. 学会等名 日本18世紀学会：共通論題 「学問・芸術の制度と『自由』 18世紀におけるアカデミー、大 学、官僚機構 」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 玉田敦子
2. 発表標題 アンシャンレジーム期における文学と歴史(学)
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会 ワークショップ「文学と歴史(学)の関係を問い直す」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新居洋子
2. 発表標題 中国知識人における西洋音楽理論と 『中国音楽』
3. 学会等名 日本音楽学会支部横断企画「近代日本と西洋音楽理論」第一部「近代日本と西洋音楽理論 超領域的展開の試み」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 玉田敦子
2. 発表標題 Du Sublime moralisateur au Sublime libertin : l'histoire mouvementée d'une notion à l'âge des Lumières
3. 学会等名 Diderot et esthétique (招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 木村三郎監修(栗田秀法)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 新古典主義美術の系譜	

1. 著者名 木俣元一, 松井裕美編 (栗田秀法)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 474
3. 書名 西洋美術史における「古典」の創出	

1. 著者名 日本科学史学会編 (隠岐さやか)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 726
3. 書名 科学史事典	

1. 著者名 坂野正則編 (中島智章)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 269
3. 書名 パリ・ノートル=ダム大聖堂の伝統と再生 : 歴史・信仰・空間から考える	

1. 著者名 長尾伸一、隠岐さやか、玉田敦子他 (日本18世紀学会 啓蒙思想の百科事典編集委員会 編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 692
3. 書名 啓蒙思想の百科事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	玉田 敦子 (Tamada Atsuko) (00434580)	中部大学・人文学部・教授 (33910)	
研究分担者	新居 洋子 (Nii Yoko) (10757280)	大東文化大学・文学部・准教授 (32636)	
研究分担者	隠岐 さや香 (Oki Sayaka) (60536879)	名古屋大学・経済学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	佐々木 真 (Sasaki Makoto) (70265966)	駒澤大学・文学部・教授 (32617)	
研究分担者	中島 智章 (Nakashima Tomoaki) (80348862)	工学院大学・建築学部(公私立大学の部局等)・教授 (32613)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関